

日本海軍機セット7

IJN Aircraft Set 7

1/700 SCALE
スカイウェブシリーズ

S66

PIT ENJOY YOUR MODEL LIFE

■ビットロード

〒213-0015
川崎市高津区観ヶ谷5-10-3
TEL 044-865-2460

↓ 作り始める前に

- 対象年齢15歳以上。
- 組み立てる前に一通り説明書を読んでください。
- 接着剤、塗料を使用の際は換気に注意し、絶対に火気の近くでは行わないでください。
- 接着剤・塗料は決して口の中に入れてください。
- 細かい部品は誤飲などの危険がありますので、幼児の手の届かない所に置いてください。
- とがった部品を扱う場合は、手などに刺さらないように注意してください。
- ビニール袋は幼児、子供が頭からかぶると窒息する場合がありますので、やぶり捨ててください。

↓ Read before assembly

- Recommended for children over 15 years old.
- Read the instruction carefully.
- When using paint and glue, ventilate your room and watch out for fire.
- Do not put paint and glue into your mouth.
- Keep the kit beyond the reach of children in case small parts are swallowed.
- Be careful of pointed parts.
- Tear and throw away the plastic bag in case children put it over and are suffocated.

↓ 組み立て途中の記号

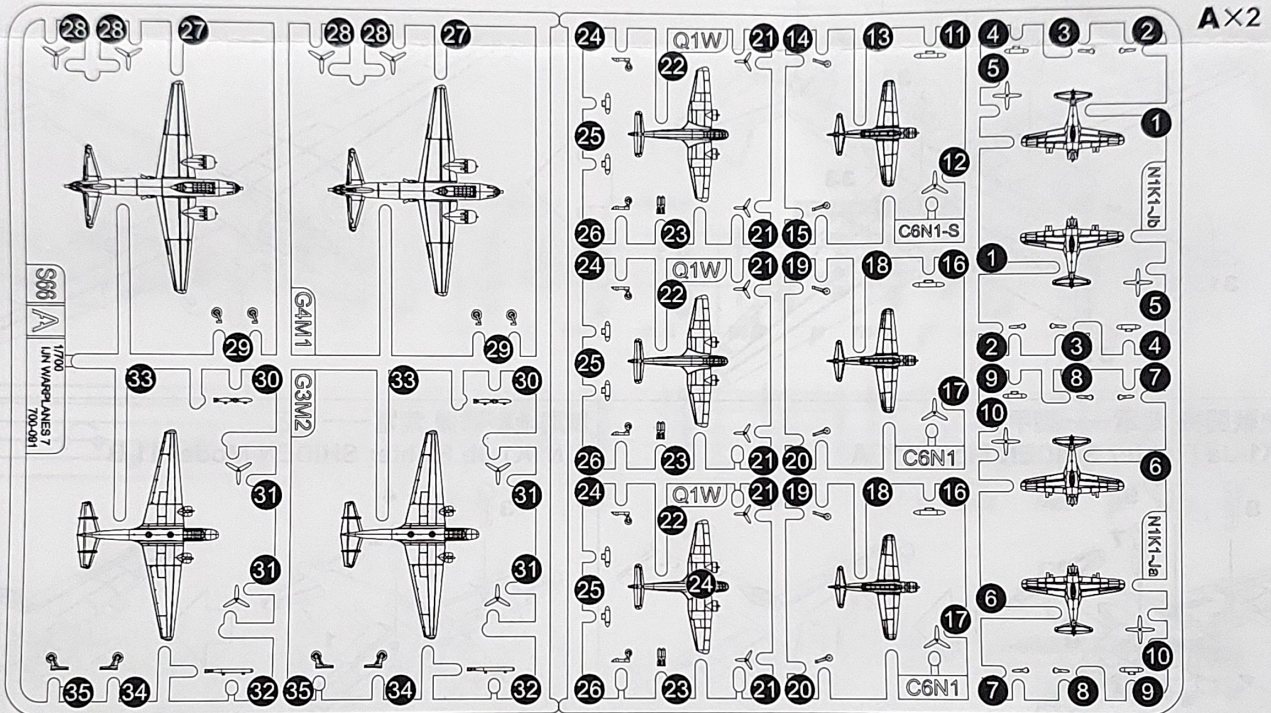
- 選びます
Optional
- 塗装します
Paint
- 2個作る
Make 2 pcs
- 組み立て順序
Assembling order
- 接着しない
Do not cement
- 切り取る
Remove
- 反対側も同じ
Same opposite side
- 穴を開けます
Make a hole

■お買い上げいただきましたら、まずはパーツのご確認をお願いいたします。万一、パーツの破損・不足等がございましたら、弊社までご連絡ください。お買い上げ日から1ヶ月経過後はアフターサポートが受けられない場合もございますのでご了承ください。お買い上げ時の日時・店名の入ったレシートは必ず保管しておいてください。中古扱い品(ユースド製品)に関しましてはアフターサポートの対象外となります。ビットロード アフターサポート係 TEL:044-865-2460(10:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 17:00/土日祝を除く) support@pit-road.jp

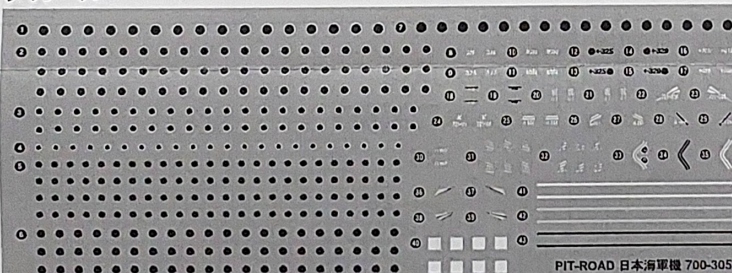


左のQRコードは弊社ウェブサイトメールフォームへのリンクとなります。お問い合わせの際などにご利用ください。

■部品図



デカール



デカール(水転写式)の貼り方

1. 貼るデカールを台紙ごと切り取り1枚ずつ水またはぬるま湯に浸します。
2. デカールが動くのを確認してから、貼る場所にデカールを静かにスライドし、置いてください。
3. 筆や指先に水をつけ、デカールをぬらしながら貼りたい位置にずらしてください。
4. 布や綿棒などでデカールを押しさえ、水分をとってください。

■陸上哨戒機 東海

東海は世界でも数少ない純粋な対潜用航空機である。従来この任務は零式水上偵察機や九七式艦上攻撃機が行ってきたが、開戦後、通商破壊の脅威を感じた日本海軍は九州飛行機に専用の対潜哨戒機の開発を指示。1944年(昭和19年)4月から生産開始された。広大な視界を誇る大きなガラス張りの風防は、開発の際に設計者が参考にしたコンカース Ju88のそれに酷似している。

■九六式陸上攻撃機二一型

ロンドン軍縮条約により空母の保有数を制限されたため、陸上から出撃できる長距離攻撃機として開発。1936年(昭和11年)に制式採用されたのが九六式陸上攻撃機である。最初の陸攻部隊は同年4月1日に開隊した木更津航空隊で、初陣は1937年(昭和12年)8月1日の中国大陸への長距離侵襲である。これは設計本来の用途ではなかったが、渡洋爆撃の始まりとして知られている。

■一式陸上攻撃機一一型

九六陸攻の成功により、日本海軍はさらに高性能の後継機の開発に着手。同機で問題となっていた防弾装備の強化や、航続距離の向上をメインに開発。1940年(昭和15年)4月に採用されたのが一式陸上攻撃機である。九六陸攻二一型と共同で上げたマレー沖海戦での殊勲は本機が挙げた輝かしい戦歴の一つであるが、山本五十六連合艦隊司令長官が戦死した際に搭乗していた機体としても有名である。

■局地戦闘機 紫電一一型甲

局地戦闘機(迎撃戦闘機)の本命である雷電の開発遅延により、水上機メーカーの川西が水上戦闘機強風の陸上化を海軍に提案。局地戦闘機紫電として1943年(昭和18年)に生産開始された。先進的な機構である自動空戦フラップを強風から受け継ぐ一方、エンジンは火星から2,000馬力級の管に換装し、主翼内及び主翼下面に装備したガンポッドに計4丁の20mm機銃を納めている。なお強風と同様に中翼であるため伸縮脚が採用されている。

■局地戦闘機 紫電一一型乙

紫電一一型甲は20mm機銃を納めたガンポッドを主翼下面に装着したことによって空気抵抗が増大したため、これを廃止翼内に4丁の機銃をすべて納めたものが紫電一一型乙である。甲・乙型ともに自動空戦フラップや伸縮脚のトラブルが頻発し、空戦性能も零戦に比べて遥かに劣るものが高空性能・降下速度は優れており、さらなる改良型である紫電改までのつなぎ役を果たした。

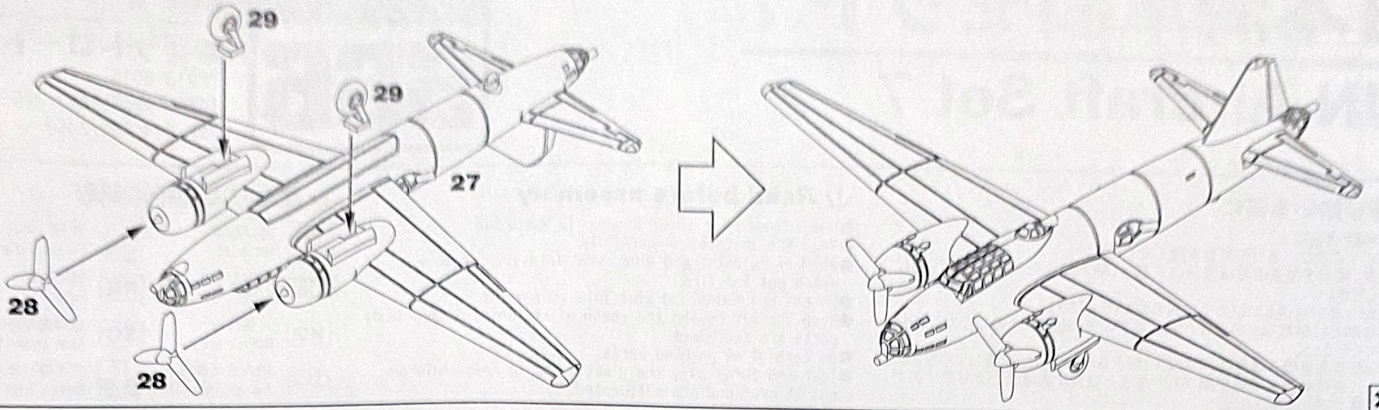
■艦上偵察機 彩雲

従来海軍において偵察の任務は艦上攻撃機が兼務していたが、開戦後に生じた専用の艦上偵察機の必要性に鑑み、中島飛行機に試作を指示。開発されたのが彩雲である。胴体直径を強力な蒼エンジンの直径ギリギリに絞った本機は海軍最速の609km/hを誇る。空母の消耗により艦上機としての活躍の機会ではなかったが、陸上基地から使用され海軍の目となった。「我二追イツクグラマン無シ」の電文は有名である。

■艦上偵察機 彩雲 夜間戦闘機型

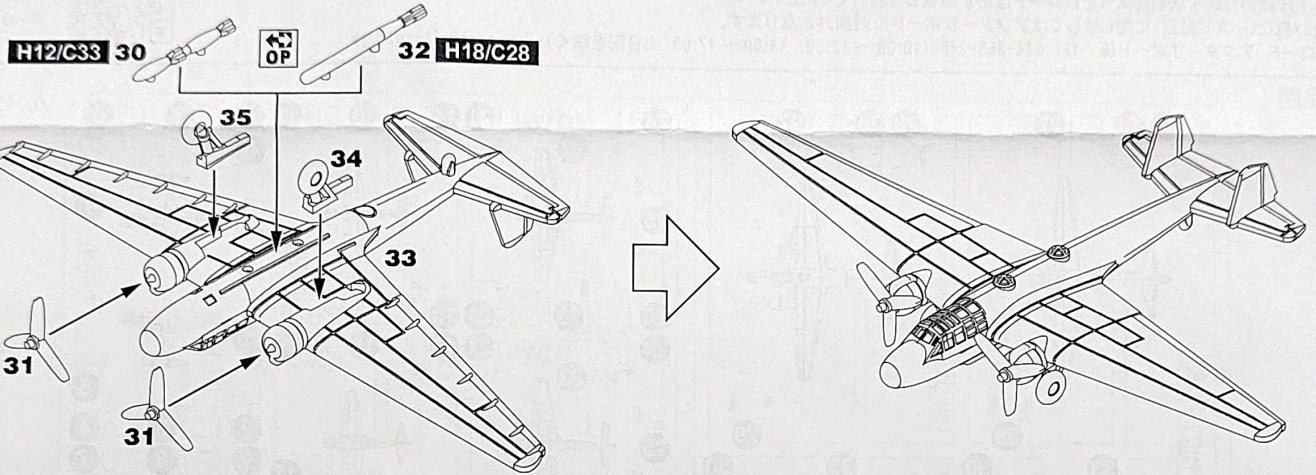
本機はB-29迎撃のため、彩雲の高速及び高高度性能を活かし、30mmの斜銃を搭載した夜間戦闘機型である。3つの座席のうち中央を撤去して機銃を固定し、B-29の死角を狙い後下方からの射撃で撃破することを想定したが、大口徑ゆえに射撃時の反動が大きく効果が疑問視された。第302航空隊に配備されたが威力を発揮する前に終戦を迎えている。なお30mmの代わりに20mm機銃2門を装備したタイプもある。

■一式陸上攻撃機一一型
G4M1 Type 1 Attack Bomber Model 11



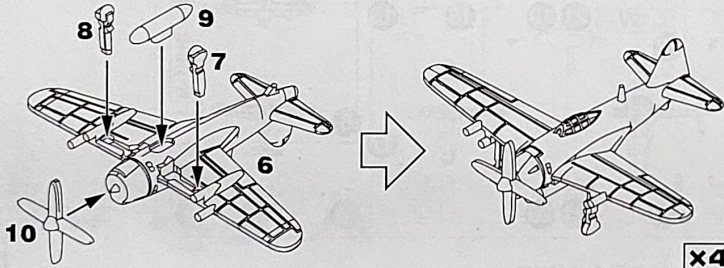
x4

■九六式陸上攻撃機二一型
G3M2 Type 96 Attack Bomber Model 21



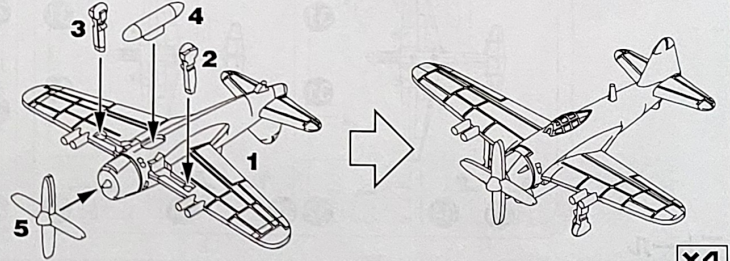
x4

■局地戦闘機 紫電一一型甲
N1K1-Ja Fighter SHIDEN Model 11 A



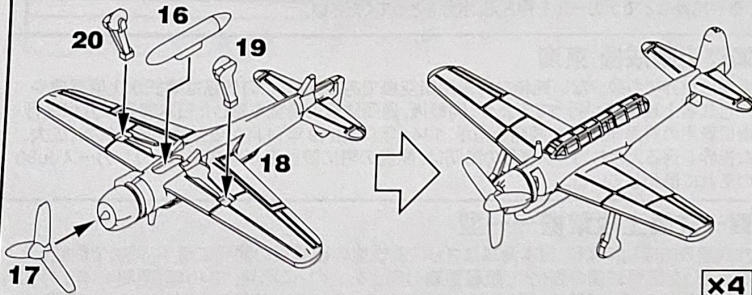
x4

■局地戦闘機 紫電一一型乙
N1K1-Jb Fighter SHIDEN Model 11 B



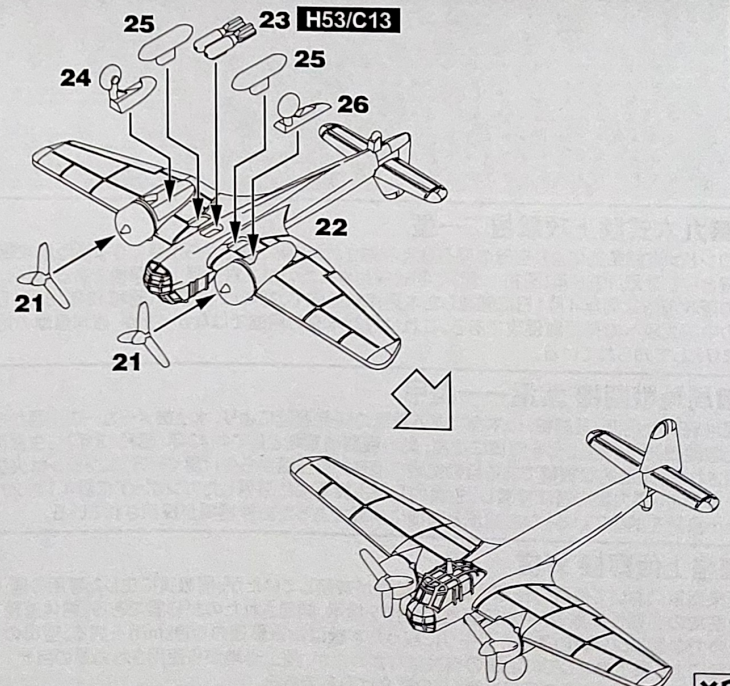
x4

■艦上偵察機 彩雲
C6N1 Reconnaissance Aircraft SAIUN



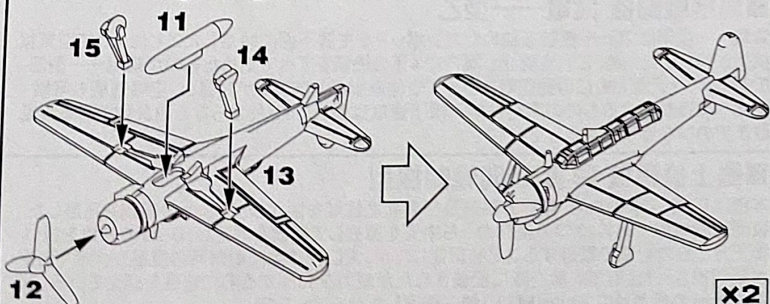
x4

■陸上哨戒機 東海
Q1W Patrol Aircraft TOKAI



x6

■彩雲 夜間戦闘機型
C6N1-S Night Fighter SAIUN



x2